



## 今月新しく 入りました。

※3月の新刊は、9日(月)から貸し出しを始めます。

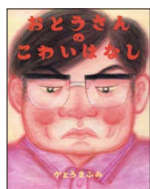
### 📖 一般の本

- ・生命式 (作=村田沙耶香)
- ・昔ばなし大学ハンドブック (作=小澤俊夫)
- ・犯人は、あなたです (作=新堂冬樹)
- ・大名倒産〈上〉〈下〉(作=浅田次郎)



### 📖 子どもの本

- ・そらまめかぞくのピクニック (作=もりかみしょうか)
- ・もぐらのほったふかい井戸 (作=安房直子)
- ・もいもい どどこ? (作=市原 淳)
- ・おとうさんのこわいはなし (作=かとうまふみ)



## 子どものお話の会

歴史民俗博物館で、子どものお話の会を行います。親子で聞きに来てみませんか。

- とき 3月14日(土)午前11時から
- ところ 歴史民俗博物館
- 問い合わせ 中央公民館まで



## 蔵書点検のため休館します

蔵書点検のため、下記の期間中は図書室を全館休館します。休館中は図書の貸し出し、閲覧ができません。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

- とき 3月2日(月)から6日(金)まで



**おしいれのぼうけん**  
作=古田足日 / 田畑精一

1 947年刊行以来多くの子どもたちを夢にしたロングセラー名作です。物語の舞台はさくら保育園、園には2つの怖いものがあります。1つは押入、もう1つはねずみばあさんです。さとしとあきは玩具の取り合いで昼寝の邪魔をして押入に入れられます。ごめんなさいを言えば直ぐに出してもらえますが、怖い暗い押入の中で2人は仲直りして手を取り合い助け合って幾多の冒険を乗り

越え、ごめんなさいは言いません。押入の中で幻視や妄想恐怖で泣きたくなります。もちろんあの怖いねずみばあさんにも追われます…。さあ2人はどうなるのでしょうか、平凡な冒険物語ではないようです。絵は鉛筆画ですが、ねずみばあさんの存在感と子どもたちの躍動感が伝わってきます。中学年には複雑なエピソードや心の動きを読み取れます。大人には郷愁を誘われる作品です。



**ぼくはイエローでホワイトで ちよっとブルー**  
作=フレディみかこ

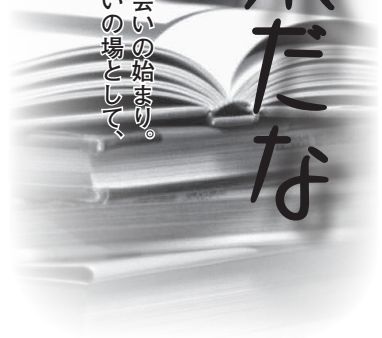
昨 年ノンフィクション本屋大賞受賞、作者は福岡出身、今、英国ブライトンで、夫(アイルランド人)、中学生の息子と暮らしています。タイトルはくはイエローで…は息子のノートに記されたものが使われています。息子は小学校を名門校カトリックに学ぶ、中学校もカトリック校を選べたのに元底辺中学校、白人労働者階級の子どもたちが通う、殺伐とした英国社会

を反映するリアルな学校を自ら選択します。日本の教育ママには考えられませんが両親は彼を尊重し入学に至ります。そこで遭遇する過酷な現状、人種差別・貧困問題・格差社会等を親子で真剣に語り合いこの社会の理不尽なことを見極め自分の行動に移していきます。息子の葛藤と成長を描いた物語です。巻末にタイトルのくだり、ブルーな心模様はグリーンに転じ、ほっとしています。



広がる本だな

本は知識を深めるだけでなく、人と人とのつながりを広げてくれます。新たな本との出会いは新たな人との出会いの始まり。広がる本だでは、新たな本との出会いの場として、毎月おすすめの本を2冊紹介しています。今月の紹介者は池野菊代さんです。



Dr. 荒巻の

## 調子はいかが？

くらで病院 ☎42局1231番

くらで病院スタッフ  
からの健康  
アドバイスです



赤いおしっこが出たのですが、がん（癌）ではないでしょうか？（62歳・男性）

### 血尿（赤いおしっこ）には色々な原因があります

ひと口に血尿と言っても、尿に血が混ざる原因にはさまざまなものがあります。

ご心配されるように、尿路にできる癌の場合もあり得ます。

尿は左右に一つずつある①腎臓で作られ、②尿管を通じて③膀胱に貯められます。その後④尿道（男性では前立腺を経由する）を経て体外に出てきます。また症状がある血尿か、症状のない血尿かも診断には重要です。症状とは排尿時の痛みや頻尿、結石痛のような片方の背中が痛くなる、または発熱などであり、それぞれ膀胱炎（前立腺炎）、尿管結石、腎盂腎炎などを考えます。症状のない血尿（無症候性血尿）では、まずは

尿の流れ道に癌が無いことを確認するように検査を進めていきます。腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、男性では前立腺癌などが血尿の原因となります。

### 血尿に対して泌尿器科の検査は

泌尿器科での検査の基本は、問診（症状の確認と血尿の状況）と検尿であり、症状や血が混ざっている場所の疑いにより検査を追加していくこととなります。体に負担のかからない、痛くない検査から行うことが基本であり、まずはすぐ簡単にできる超音波検査で腎臓・膀胱（男性では前立腺）に異常がないか調べます。この段階で何らかの疾患の疑いがあれば、さらにCTや採血検査、膀胱鏡などの検査を行うことになりま

す。膀胱癌の85パーセントは肉眼的血尿にて発見されているので、今回のように肉眼的血尿は見逃せない病気のサインであり、尿の中に癌細胞が混じっていないか尿細胞診という検査も行います。超音波検査で膀胱内の異常が疑われるか、尿細胞診が陽性（癌細胞の存在）の場合は、膀胱鏡を行います。尿道に麻酔を行って検査しますが、現在では痛みの少ない、軟性ファイバースコープを用いて膀胱内の観察を行うことも可能です。

### 血尿は放置しない

今回とは逆に、血尿とは自覚されないような健診や人間ドックによる尿検査での尿潜血の指摘であっても放置しておくのは危険です。尿潜血と

診断されて3年以内の間に1から3パーセントに悪性腫瘍（癌）が見つかったという報告もあります。この頻度が多いか少ないかには異論があるでしょうが、放置することにより症状が出現（病状が進行した）してからでは遅かったという場合もあり得るのです。

以前から尿潜血は指摘されており、数年前には検査も受けているが異常がなかったのですが大丈夫であろうと考えられている方も見かけます。しかし尿潜血の程度が進んだことなどによって健診報告書で精査をすすめられた場合は、ためらわずに泌尿器科への受診をおすすめします。

血尿は体からの重要な病気のシグナルです。症状がなくても早期発見・対応のチャンスとなりますので泌尿器科への受診をおすすめします。



「アドバイザー」

荒巻和伸・あらまきかずのぶ・平成3年産業医科大学医学部卒業。産業医科大学および原三信病院、三菱化学黒崎付属病院、JCHO徳山中央病院などに勤務。令和2年2月から、くらで病院泌尿器科に常勤として勤務。日本泌尿器科学会専門医・指導医。日本泌尿器科学会、日本透析医学会所属。

